



# 棚田ライターズ

全国棚田(千枚田)連絡協議会

第70号 2015.12.25

(年2回発行)

発行/全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集/ふるきやらネットワーク

Tel:044-0004 東京都小金井市本町6-63-1 ム石塀内

Tel:042-386-8355 / FAX:042-385-1180

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 特集・第21回全国棚田サミット



玄海町、浜野浦の畠田での見学会にて。浜野浦棚田保全組合、松本正弘組合長による説明も



玄海町の石工の里、植賀川内(ちががわち)、おいしい手作りまんじゅうにはっこり

道津市肥前和、大浦の畠田でのおもてなし。2色のまんじゅうは、よもぎとかほぢゅ

第21回全国棚田(千枚田)サミット特集  
賀の棚田紹介【地域文化と棚田④】佐賀県  
小城市 トピックス愛知県新城市ほか ほか

# 第21回全国棚田(千枚田)サミット開催!

佐賀県玄海町にて「共につたえよう美しく豊かな棚田」

～ふるさとを未来へつなぐ～

平成27年10月23日(金)～24日(土)



あおば・ふたば保育園児による「棚田へ行こう！」  
の歌と踊りで開幕(右)。引き続き、玄海みらい学園  
小中学生による有満和太鼓(左)龍神太鼓が披露



## 開催プログラム

1日目:10月23日(金)

- 全国棚田(千枚田)連絡協議会総会
- オープニング・閉会式
- 事例発表 玄海町役場産業振興課「棚田米を起爆剤とした地域振興策」  
唐津青翔高等学校 環境部「玄海町の山・川・海」
- 開催県歓迎の挨拶:佐賀県知事
- 基調講演「景観からみた日本の心」講師:涌井雅之氏
- 分科会

第1分科会「棚田を未来へつなぐ～棚田保全の必要性～」  
第2分科会「農業を未来へつなぐ～棚田を活かした農業経営～」

第3分科会「農村を未来へつなぐ～地域資源を活かしたムラづくり～」

- 保存会意見交換会「棚田保全活動団体の運営と課題」
- 首長会議「田園回帰」の実情と条件づくり・棚田地域再生に向けて
- 全体交流会

2日目:10月24日(土)

- 棚田現地見学
  - Aコース:浜野浦の棚田ウォーキングコース
  - Bコース:浜野浦の棚田と町内施設見学コース
  - Cコース:日本の棚田百選コース
  - Dコース:浜野浦の棚田と名護屋城博物館・城跡見学コース
- 分科会のまとめ
- 閉会式

# 棚田はふるさと、日本の原点

佐賀県玄海町 町長 岸本英雄

第21回全国棚田(千枚田)サミットは、ご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様のお陰をもちまして無事開催することができました。北は宮城県や山形県、南は鹿児島県の全国33都道府県から661名の方々にご参加いただき、天候にも恵まれた、実りある2日間のサミットとなりましたことを心から感謝申し上げます。

今回、サミット開催に取り組む中で、これまで当たり前だった棚田のある風景がとても素晴らしいものだということを、本町でも再確認することができました。

日本を支えているのは食糧を生産してきた地方の力です。地方は棚田を中心に代々農業生産活動を行ってきました。そのふるさとの原点である棚田の価値を今一度見直し、未来へつないでいくことが私たちの重要な仕事であると考えます。

これからも、本サミットでつながった全国の皆様と共に、棚田の持つ多面的機能を守り継ぎ、更なる棚田保全、中山間地域の発展につなげていけるものと確信しております。

最後に、田植えを行う春や新緑が鮮やかな夏などにも、ぜひ玄海町の棚田や食を堪能しに来てください。心よりお待ちしております。



## ●事例発表 ●

「玄海町の山・川・海」:「棚田米を起爆剤とした地域振興策」

唐津青翔高等学校 環境部



約10年前に発足した環境部。過去3年間玄海町の河口付近12箇所で貝類の調査を行う。希少な貝類も確認でき、棚田の恩恵もあり、多様な環境に生息していると発表した。

玄海町役場産業振興課主事 井上俊一氏



クラウドファンディングを利用して「美しい棚田で採れた美味しいお米でお酒を作る」プロジェクトを実施。生産者の夢を実現させる地域振興策を披露した。

## ●基調講演 ●

「景観からみた日本の心」

講師:造園家・ランドスケープアーキテクト

涌井雅之氏



TBS「サンデーモーニング」のコメンテーターとしても知られる造園家、涌井氏の講演。第3の革命(第1次は農業革命、第2次は産業革命)である「環境革命」の必要性を説き、自然共生社会のあり方が棚田をはじめ「里山型社会」にあると話した。

# 1 棚田を未来へつなぐ～棚田保全の必要性～



## 新たな社会関係資本を構築する動き

コーディネーター・佐賀大学教授

五十嵐 勉



耕作放棄地の拡大や「限界集落」など  
の棚田を取り巻く状況が深刻化する中  
で、今、あえて、なぜ棚田を保全しなけ  
ればいけないのか、その必要性について  
改めて考える分科会であった。

玄海町浜野浦の棚田保全組合長の松本  
正弘氏は、複合経営を行う専業農家を中  
心とする棚田組合によって保全されてき  
たが、サミット開催にあわせてソバの種  
まきのボランティアの受け入れなど今後  
の新しい棚田保全への取り組みを始め  
た。徳島県内の石積み棚田の健康診断を  
実施した東京工業大学の真田純子氏は、  
危険性のある棚田を地図化し、石積技術  
を習いたい人、直してほしい人、教える  
人、その三者のマッチングを行う石積み

の学校を開講した。福岡県黒木町の  
NPO法人山村塾の小森耕太氏は、多く  
の若者をボランティアとして受け入れ、  
記憶に新しい平成24年7月に九州北部を  
襲った豪雨災害では、この経験を活かし  
て災害復旧とその後の農家の営農意欲を  
持続させるために棚田米の販売支援にも  
精力的に関わっている。熊本県水俣市久  
木野の愛林館館長の沢畠亨氏も、近代の  
負の遺産としての水俣の上流地域に位置  
する地域で、森林整備、棚田での営農、  
石積みの補修などに積極的にボランティ  
アを受け入れ、農家の所得向上を目指し  
て農産加工、レストランの運営など多様  
な活動を開催している。

高齢化と人口減少、そして共同作業で

支えられてきた集落のコミュニティ

機能が著しく低下している中で、真

田氏、小森氏、沢畠氏のようないわ

ば外部者が、若者たちをボランタ

リーとして数多く集め、それらを組

織化することで棚田保全や森林保全

に取り組んでいる。このような活動

は、大学生を含む多様なボランタ

リーカーを活用するもので、そ

れを支える中間的支援者たちによる

新たな社会関係資本（ソーシャル

キャピタル）を構築する動きとし  
て、また「田園回帰」を支える基盤  
としても積極的に評価されるべき運

動であると思われた。

## アンテナを高く、情報発信を

コーディネーター・佐賀大学大学院 特任教授

内海修一



「棚田を活かした農業経営」について4  
人のパネラーが報告、会場参加者を含め活  
発な論議が交わされた。その中から主な  
内容を紹介したい。第1点目は、棚田米の  
ブランド化に加え新たな販路の開拓や米  
粉を活用した農産加工、農家レストランな  
ど経営の多角化が進展、規模は小さいが  
ビジネスとして展開してきていること。

第2点目は、棚田米の高付加価値化を図  
り、直売所や学校・企業等に販売、棚田を担  
う生産者にメリットを還元すると共に高  
齢者や女性の働く場を確保する試み、これ  
が地域の元気の源につながっていること。

第3点目は、担い手組織について、棚田  
の維持・発展のためには、生産の担い手、交  
流・イベント等を支える担い手、里山も含  
めて地域の資源環境の保全を担うNPO、  
企業など、この3つの重層的な担い手が  
役割を分担していく仕組みが大切なこと。  
そこには棚田を守ることについての価値  
観・理解が共有されていること。

また、担い手の育成の中でも棚田保全を牽  
引してきたリーダーが、棚田と直接関係な  
い若い専業農業青年や調理師専門学校の  
生徒など若者と棚田の関わりを作つてい  
くことの大切さ、「若手の声が響く地域づ  
くり」が棚田を守る出発点と指摘

さらに北九州子ども村中学校の生徒  
が50年前から荒地だった水田を復田して  
いる取組を紹介。学校教育の中で棚田や農  
業の役割・大切さなど体験プロジェクトを  
通し学んでいるという貴重な報告があつた。

第4点目は、今回の特徴の一つは、意

欲ある女性の活動展開であった。山間農

村の中で日頃は、兼業でありながら休日  
や夜間に頻繁に話し合いを進め、村が疲

弊するという危機感の中で、地域特産物  
として黒米に徹底的にこだわり、味噌や

黒米を使った多彩な商品や草木染め、地

元の農業高校や異業種と連携した新商品

の開発、食育活動や国際交流、地域環境

の改善運動などむらぐるみで年々活動の

幅を広げてきていること。

第5点目は、地元の棚田地区の中で専

業農家として頑張っている経営者が、

「若者に棚田を継げとはいえない」との

現実の中で、地域の資源を活用しながら

手作りの商品を開発し、ふるさと納税制

度を活用して、地域全体として棚田を支

えていくことの大切さを強調した。

最後に棚田を支える担い手層が多様化

し重層化する中で、組織全体・地域全体

をマネジメントする地域リーダーの育成

が大きな課題として提起された。これだ

け頑張っているのに耕作放棄地が発生す

る中で、営農と保全をどう両立させてい

くかという根本的な問題提起もあった。

それぞれの棚田に一

層磨きをかけ、消費者、

地域住民も含めて棚田

を守ることの社会的価

値を再認識していくこ

と、そのためにもアン

テナを高く、常に情報発信していくことの大

切さを指摘した。市場

競争原理に一層拍車を

かけるTPPの動きの中

で、全国各地で棚田

を守り維持保全に向

けけるTPPの動きの中

で、中山間地農業のセ

ーフティーネットの一

層の充実・拡充が必

要であると痛感した。

○コーディネーター・内海修一氏(佐賀大学大学院農芸研究科特任教授)

○話題提供者：松本忠久氏(玄海町出身 佐賀県指導農業士、酪農家)

百武兵衛氏(佐賀県相知町出身 緑野棚田保存会会長)

山本哲郎氏(長崎県出身 岳棚田プロジェクト21代表)

川久保國緒氏(佐賀県伊万里市出身 夢耕房農屋加工グループ代表)

# 3 農村を未来へつなぐ～地域資源を活かしたムラづくり～



## 知恵と汗次第でまだまだやれる地域創生

コーディネーター：「Nippon MURA」編集長

養父信夫  
ようぶのぶお



○コーディネーター：養父信夫氏（Nippon MURA編集長、一般社団法人九州のムラ代表理事）

○話題提供者：溝上孝利氏（玄海町出身　唐津・玄海体験型旅行受入協議会玄海支部部長）

藤瀬吉徳氏（佐賀県三瀬村出身 「農家民泊県座」代表）

山口聖一氏（福岡県出身 NPO法人がんばりよるよ星野村理事長）

川口幹子氏（青森県出身 一般社団法人MIT専務理事）

そんな中、棚田の景観、文化的価値、都市部にとつて魅力的な食など、農村の魅力を都市部に繋げるグリーンツーリズムに期待が高まっている。溝上氏からは民泊型修学旅行として平均すると2日間

の宿泊・体験で一人当たり約9,600円が地域に落ちているとの報告が。今年は、3,000人を、通算で1万8,700人を体験民泊で受け入れているとか。藤瀬氏からは、年間500～600人の民泊される方が特区にて作ったどぶろくを直接買い求め、年間10,000本が完売する

という報告も。この場合、通常の米作りに比べ利益が20倍近くに。また、元地域おこし協力隊員である川口氏からは、「学びを商品化」するという視点で限界集落にて取り組みを行つて、彼女を中心で市部からの若者が移住し、一般社団法人を立ち上げた事例報告が。

山口氏からは災害をきっかけにボランティアが約8,000人、集落にかかわり、本人自身、団塊世代ヒターン者という地域のしがらみを超えた人間がこれから都市部と農村をつなぎ、「共助」という考え方で地域を興していくというメッセージもいたいた。

「棚田」を持つ地域の地方創生は、知恵と汗次第ではまだまだやれると実感した。

## 地域おこし協力隊や新たな活性化策に注目が

コーディネーター：棚田学長 東京農工大学名誉教授

千賀裕太郎  
せんがゆうたろう



首長会議は、20市町村の首長らが寄り合ひ、農林水産省地域振興課の圓山満久課長及び島田篤行課長補佐のご臨席を得て、「田園回帰の実情と条件づくり－棚田地域再生に向けて」をテーマに、報告・質疑が行われた。このうち、特徴ある2事例を紹介する。

佐賀県玄海町では、耕作放棄地の増大を抑制するため、百選の棚田（浜野浦）を「恋人の聖地」としてPRしたところ、多くの来訪（GW中、最多で6,600人／日）を確保することができ、また学生の体験型旅行を誘致して、関東・関西方面から6,000名以上の中学生が来訪したなどの成果が披露され、さらにふるさと納税の制度を活用し、棚田米、佐賀牛、鯛などの特産品の魅力から10億円を超える納税額を確保して、棚田地域活性化に寄与していることなどが報告され、注目を浴びた。

また、多くの集落が平均年齢65歳以上の新潟県十日町市から、「地域おこし協力隊受け入れ事業」の成果が報告された。同事業で平成27年度までの43人（男28、女15）の受入者のうち、これまで25名が卒業したが、17人（男10、女7）が市内に残つて起業・起農し、集落の活性化に寄与している。

この極めて高い定着率（約7割）には、参加者一同から驚きの声が上がった。質疑の中で、同町では、新規農業者への支



# 「棚田保全活動団体の運営と課題」



## 西日本を中心に15団体が参加し議論

コーディネーター 早稲田大学名誉教授、NPO法人棚田ネットワーク代表

中島峰広  
ながしまみねひろ



保存会の意見交換会は、第19回(和歌山県有田町)サミットから始まつたもので、第3回を迎える。全体交流会が挨拶程度で終わるため、時間をかけた意見交換を行う場として設けられた。本年度は、昨年が東日本(東北・関東・信越・東海・近畿)を中心とした保存会の集まりであったため、西日本(中四国・九州)において活動する27団体に声をかけた結果、北は山口県長門市後畠から、南は宮崎県日南市坂元までの15団体の参加を得た。

まず、話題提供として山口県周南市中須北、愛媛県大洲市桜谷、長崎県長崎市大中尾の3地区により活動状況の報告があり、周南市の棚田清流会からは集落戸・全住民が保全活動に参加し、コミュニティの团结を固つていて、

④高知県梼原町の事例、棚田オーナー制度が、当初のグリーンツーリズム・農業体験型から就農型オーナー制への転換を迫られていることなどの実情が報告された。

③日南市の事例、地権者ではなく同じ集落の住民が担い手になるとともに、市街地に住む集落出身の若者が結成した「わけ一し会」を休日に呼び戻し、活動に参加させていること。

②佐賀県玄海町、日南市、長崎市の事例、担い手をまず家族内→集落内→集落外の地元→周辺都市に求める努力が行われていること。

## 分科会感想

### 加藤智大さん

愛知県新城設率農林水産事務所建設課技師



#### 第2分科会

私が参加した第2分科会では、「棚田を活かした農業経営」をテーマに、棚田の持つブランド力や発展機能などを活かした取組について事例報告がありました。6次産業化、オーナー制度、グリーンツーリズムなど、取組の内容は地域の特色により様々ですが、どの保存会も民間企業と協働した新商品の開発など、地域外部の団体と連携した取組を重視している印象を受けました。

保存会の方々が宝としている棚田を守っていくには、もちろん地域の方々の頑張りが最も重要なと思われますが、これから棚田保全において、行政も含め多様な団体が協働して知恵を出していくことが、より必要とされているのだと感じました。



### 第1分科会

日頃棚田を見るときいつも思うことは、棚田を作った先人たちの努力と忍耐力です。現代のように車や重機のない時代に人の力で石を運び、そして一つ一つ積み上げてできた棚田は、正に血と汗の結晶だと思います。

第1分科会はそんな棚田を未来に残そうと奮闘する方々のお話でした。どの方も棚田を様々な方向から見つめ、そして研究し、様々な課題を試行錯誤しながら乗り越え、未来につないでいこうと努力されていると感じました。

棚田の景観を未来に残すということは、先人たちの思いを未来につなぐことでもあると思います。行政としても今回講演頂いた方のような地域のリーダーをもっと応援していくべきだと思いました。



### 今里健介さん

福岡県八女市役所星野支所建設経済課産業観光係

### 野田 浩さん(写真左端)

中山間錦原集落(佐賀市富士町在住)

#### 第3分科会

「想いはあるけど動かない」

分科会の話題提供者である川口幹子氏の発言には、(自嘲を含めて)苦笑いしていました。

私の地元である佐賀市富士町錦原集落は、佐賀県の中央にそびえる天山の北東側に位置し、戸数11戸、住民数は30名という限界集落周辺の小さな集落です。耕作放棄地も年々増加しており、最盛期には23ha程度の耕作地があったようですが、現在は、約13haまで減少しています。

集落のほぼ全体が、中山間地域直接支払交付金でいうところの「超急傾斜」に該当するような急峻な地形で、「〇〇の棚田」と呼ばれるような有名な棚田は存在しませんが、耕作地のほとんどが棚田の集落です。

今回、初めて棚田サミットに参加しましたが、川口氏の発言は、過疎化にあるほとんどの集落にあてはまるのではないかと思いました。地方の集落は、付き合いが濃厚な分、様々なしがらみも存在し、動きづらい面があるのも事実ですが、「今を変えなければ、未来を変えることはできない」という言葉のとおり、何かを始めてみるとこれが一番重要なことかもしれません。

錦原集落では、耕作放棄地の発生の予防、そして少人数となってしまった集落の活性化の一助となるように、今年から中山間錦原集落青年部を立ち上げました(青年部8名のうち3名は、集落外に転居していた方です)。

まずは、耕作者のいない農地の管理と集落内の畠の再生から取り組んでいますが、想いを形にするため、皆で意見を出し合いながら、活動範囲を広げていきたいと思っています。

**A**

## 浜野浦の棚田ウォーキングコース ～棚田を守る大変さを体感～

鹿児島県土地改良事業団体連合会 農村整備課

宮原博子

鹿児島県の棚田関係者12名で、玄海町での棚田サミットに参加しました。せっかく棚田サミットに参加するのだから、棚田の美しさを実感し、棚田の地形を体感しなければ、現地見学会は「浜野浦の棚田ウォーキングコース」を選択しました。

和歌山県有田川町や山形県上山市の棚田も歩きましたが、特に苦痛を感じるほどではなかったので、日頃の農作業で鍛えた方々なら大丈夫と選びました。しかし、甘い考えでした。そもそも鹿児島からの参加者は、私のことを少なからず恨んだのではないかでしょうか。

送迎バスに揺られて「浜野浦の棚田」へ。絶景です。展望所から見る景色は、左右にぐるりと仮屋廻までの斜面を棚田がひつしりと覆っていました。上段の棚田ほど狭く耕耘機のリターンは絶対無理だと一目で判断できる棚田を数多く見かけました。地元の方に聽けば、上方にだけ小さな圃場進入路があり、前進と後進を繰り返しながら作業を進めるのだそうです。

手作りの田植えダゴとお茶・  
ミカンのおもてなし

玄海町・浜野浦集落の方、心温まるおもてなしをありがとうございました。今度は夕日の当たる6月の棚田を見に参りたいと思います。



写真前列左端が、  
宮原博子さん

**地**

現地見学Aコース

現地見学Bコース

それでもうひとつは薬用植物栽培研究所「薬草園」です。非常に多くの薬草を栽培研究しており、そこで試飲として出されたミシマサイコ茶は美味しかったです。つい3袋も買ってしまいましたが、最初に全員に資料として配られた手提げ袋の中に、既に1袋入つていたと気付いたのは帰宅してのことでした（でも悔いはない）。

町内施設は2箇所の見学となりまして、ひとつは玄海町次世代工ネルギーパーク「あすびあ」です。太陽(光熱)・風・水・バイオマスといった環境に優しいエネルギーの生活をテーマとして、子供にも遊びを通じて知つてもらうよう、大人でも感心するほど様々な工夫が施されていました。

そしてもうひとつは農業植物栽培研究所「菜園園」です。非常に多くの菜園を栽培研究しており、そこで試飲として出されたミシマサイコ茶は美味しかったです。つい3袋も買ってしまいましたが、最初に全員に資料として配られた手提げ袋の中に、既に1袋入つていたと気付いたのは帰宅してのことでした（でも悔いはない）。



岐阜県恵那市 NPO法人恵那市坂折棚田保存会事務局

久保田 旭

## 浜野浦の棚田と町内施設見学コース ～生産者(担い手)が元気に輝く町～

岐阜県恵那市

NPO法人恵那市坂折棚田保存会事務局

久保田 旭



## C 日本の棚田百選「コース」

～棚田・海・空が織り成す美しい景観～

島根県鹿足郡 吉賀町役場産業課 主任 糟谷通輔

かずやみらすけ

現

見

D

浜野浦の棚田と名護屋城博物館・城跡見学「コース」

～棚田より団子の現地見学～

長崎県 波佐見町地域おこし協力隊

大石さやか



大浦の棚田風景。海と棚田の景観は圧巻でした



浜野浦 幸せの鐘「エターナルロック」



浜野浦の棚田。恋人の聖地ということで、またプライベートで行きたいと思います

地元の棚田農家の方と、全国の棚田百選に選ばれた棚田の景観や取り組みを学びため、「日本の棚田百選」コースに参加させていただき、「大浦の棚田」「浜野浦の棚田」を見学しました。どちらの棚田も海沿いの立地で、山の中に築かれた棚田しか見たことのない私にとっては、海と棚田の風景はとても新鮮でした。

棚田・海・空が織り成す美しい景観を見ているうちに、私の地元の棚田と同じく、地元の方々が代々棚田を守り継いできた歴史を想い、「棚田保全」の担当者として自分の仕事の重要性を再認識しました。

また、地元以外の棚田を見ることで、参考になる取り組みや、地元の棚田のすばらしさを再発見することができ、大変勉強になりました。

なみ見学会となりました。  
歓迎してくださった地元の皆様、ほんとうにありがとうございました。



懇親会の爪痕が残る背を摩りながらバスに乗り、現地見学「コース」浜野浦の棚田、名護屋城跡、白山神社に出掛けました。初めて訪れた浜野浦の棚田で迎えてくれたのは、今日の日に合わせたかのように咲き誇る薔薇の花々。その白色の絨毯を眺めながら、田植えの時期に水田に映る夕焼けの美しさを想像しました。そして足早に棚田を後にし、傍にある小店へ。前日の分科会で発表された「松本アイス工房」のアイスを購入し、皆で舌鼓を打ちました。私はバニラを食べましたが、味はもちろん舌触りが大変なめらかで、アイスというよりもソフトクリームに近い贅沢な逸品でした。

他の味のアイスに後ろ髪をひかれながら、次の見学先の名護屋城跡へ。名将が石工に造らせたという石積みの城壁の緻密さを見て、棚田を創造した技術と繋がる職人技に感服しました。感動冷めやらぬうちに、最後の見学先の石工の里・白山神社へ。石工の里の神社というだけあり、鳥居の下には非常に凝った石造りの狛犬。と、ここでも見学を早々に切り上げ、ふるまいのお団子とお茶を御馳走になりました。田植えの際に食べる習慣だというお団子は、1つ食べる

浜野浦の棚田では棚田米の試食も



べれば満腹になる食べ応え。  
この後、会場で贅沢な和牛たたき弁当が待っていると石露知らず、棚田より団子の現地見学を終えたのでした。



白山神社のおもてなし会場は大盛況



長い歴史の途中で崩された名護屋城の城壁





# 佐賀の棚田

佐賀県では、平成15年6月に「佐賀県の棚田を守つていこう！」と棚田のある市町村などにより『さが棚田ネットワーク』が設立されました。『さが棚田ネットワーク』は、棚田のよさや大切さを多くの方に知つてもらい、棚田保全の輪を広げるため、県内の棚田の紹介や田植え、稲刈り体験等のイベント情報発信を行うなど、佐賀県の棚田地域の活性化と棚田の保全を図っています。



## おおうら 大浦の棚田 (唐津市肥前町)



その昔、弘法大師がこの地の美しさに筆を投げたと伝えられている玄海国定公園「いいろは島」を背景にしながら、眼下に約30haで1,000枚の棚田を見渡すことができます。4月下旬頃の代わり直後の水田の眺めが見頃です。日本の棚田百選に認定されています。



## にしあたに 西の谷の棚田 (佐賀市富士町)



富士町のほぼ中央部、大串川の両岸に沿って広がる標高350mにあり、米作を中心とした農山村の棚田地域です。夏の涼涼な気候を活かしてレタスやほうれんそうなどの野菜栽培も盛んです。日本の棚田百選に認定されています。

## いけばる 池原地区 (唐津市七山)



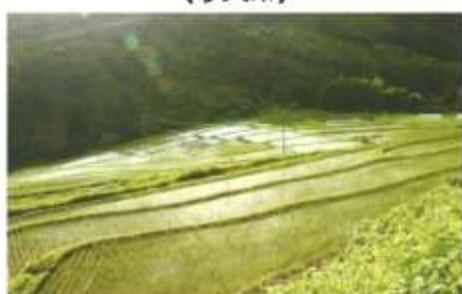
唐津市七山の南部に位置する、平均標高500mの山間地域の棚田です。近くには樺原湿原が広がっており、自然豊かな棚田です。秋には、五穀豊穣と無病息災を祈願する天衡舞浮立が行われ、多くの観光客が訪れます。

## あまがわ 天川地区 (唐津市厳木町)



唐津市東部に位置する平均標高600mの山間地域に広がる棚田です。近くの天山山頂からは佐賀平原、有明海などのすばらしい眺めを展望できます。

## あまがせ 天ヶ瀬地区 (多久市)



鬼ノ鼻山山系の中腹、標高150mに広がる棚田で、天ヶ瀬ダムから眺めた田んぼは、緩やかに彌を描き、よろいあどしのようです。遮るものがないため、展望が開けています。

## わらびの 轟野の棚田 (唐津市相知町)



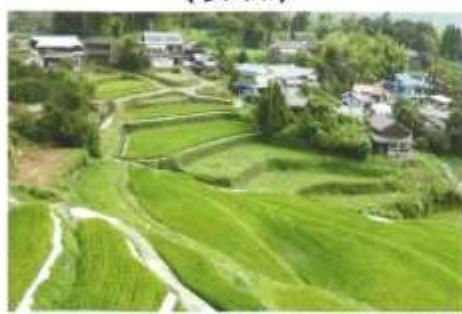
八幡岳(標高764m)の斜面に扇状に広がり、約36haに700枚とその規模は全国でもトップクラスです。石積みの棚田が特徴で、1番高い石積みは8.5mに及び、城壁を思わせるほどです。日本の棚田百選のほか、棚田で初めて「国の重要文化的景観」に選ばれました。

## おおごの 大小野地区 (佐賀市)



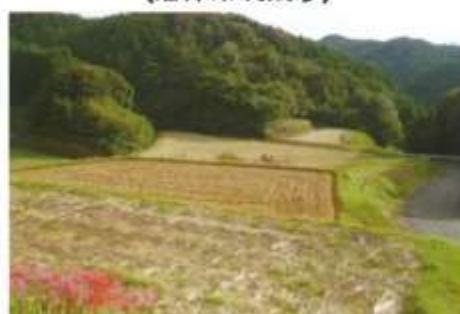
佐賀市の最北部に位置する中山間指定地域で、ながらかな田んぼが広がります。周辺には高さ2.8mのシヤクナゲが広がり、4月にはうすべに色の花が見る人を楽しませています。

## ひらの 平野地区 (多久市)



多久市の西部徳速岳の中腹、標高190mにある約7ha、150枚の棚田です。地区内には、平野川をはじめとする清流が流れ初夏には豊の乱舞が見られます。

## しげ 志貴地区 (唐津市北波多)



唐津市北波多の南部と伊万里市との境界、標高80m前後の丘陵地帯に広がる棚田です。「基盤整備後の棚田」で整然とした水田風景が特徴です。

## まつうめ 松梅地区 (佐賀市大和町)



柚木の棚田と楮原の棚田は大和町北部に広がる農村地域です。脊振山地内の急峻地で、等高線に合わせた細長い農地が特徴です。

## 山田地区

(三養基郡みやき町)

## 中木庭地区

(鹿島市)

## 炭山地区

(伊万里市二里町)



脊振山系の東部に位置し、標高100~150m、面積6haに87枚の田んぼが広がります。地域の活性化と棚田の多面的機能の情報発信のために、ヒマワリの種を夏にまき、秋に開花させ、観光スポットとなっています。



多良岳山系の谷間に小規模な棚田が点在する農村地帯です。初夏の紫陽花や秋の紅葉などが棚田の景観をさらに美しく引き立てています。



伊万里市の南西部、国見山系東部の標高200~250mに位置する農山村の棚田です。棚田オーナー制度を実施し、美しい景観を守っています。

## 浜野浦の棚田

(東松浦郡玄海町)

日本  
の  
棚田百選

江  
西  
県  
選  
定

## 江里山の棚田

(小城市小城町)

日本  
の  
棚田百選

正  
式  
選  
定

## 川内地区

(武雄市)



玄界灘に面した海岸から駆け上がる階段のように、斜面を幾重にも連なる棚田が造成されています。棚田の規模は約11.5haで283枚です。代播きから田植え後の季節は、水平線に沈む太陽と海、そして水を張った棚田の景色が多くの人々を魅了しています。日本の棚田百選に認定されています。



天山山系の中腹に位置し、標高250m、約16haに600枚の棚田が広がっています。9月下旬には、彼岸花があぜ道を赤く染め、稻穂とのコントラストが里山の風景を彩ります。日本の棚田百選に認定されています。



県立自然公園八幡岳の西部中腹の標高200~250mにあります。3月下旬には、八幡岳の麓にひっそりと立つ秘境のジラカンス桜が賑わいを演出しています。

## 岳の棚田

(西松浦郡有田町)

日本  
の  
棚田百選

正  
式  
選  
定

## 兎鹿野地区

(嬉野市嬉野町)



国見山麓の標高400mの斜面に、約26haで570枚の棚田が造られています。眼下には、階段状に連なる曲線の美しい棚田が広がり、農村の原風景を醸し出しています。日本の棚田百選に認定されています。



標高200mに位置する、農村の棚田地帯です。東向きで寒暖の差が激しい棚田です。朝もやがかかると幻想的な景色が広がります。



長崎県との境界にまたがる神六山の中腹にかけて山の斜面を利用した棚田が点在しています。雲の隙間から見える夏頃の日の出、雲海の景色や夕日は絶景です。

## 中尾地区

(藤津郡太良町)



多良岳山系の中腹、糸岐川の上流に位置し、約19haの棚田が広がります。帆柱岳の水源から約11kmにわたる水路を通し、地区の水田を潤しています。

## 坂本地区

(神埼郡吉野ヶ里町)



脊振山系の南部に位置し、昔ながらの農村風景に出会えます。地元の農家の手により整然と整備・保存されてきた棚田は壯観な眺めが広がります。

## 早ノ瀬地区

(鹿島市)



多良岳山系の谷間に小規模な棚田が点在する農村地帯です。「能古見」の銘柄で有名な酒造りの里で、多良岳山系から湧き出る伏流水が棚田を潤し、美味しい棚田米を育んでいます。

おぎ

# 城下町小城(商工)と江里山棚田(農)

えりやま

## 佐賀県小城市

おぎ

「江里山棚田の歴史は不明ですが、

約800年前、鎌倉中期に千葉氏一族が小城に来て祇園社、今の須賀神社を建てて、この地を治めたんですね。この城を守るために農業が発達したんですよ。武士の食糧確保でここに棚田ができるんじやないかと思います」

佐賀県小城市、江里山集落の

「江里山棚田米生産組合」組合長

の岡本力男さん(77)がそう話す。江

里山集落は現在、24戸約80人余。

耕作水田面積12haほど。今も懐かしい原風景が残る山里だが、自給

自足的に暮らしてきたわけではな

さうである。

**城下町小城の産業を支えた農家**

「江里山棚田米生産組合」組合長

の岡本力男さん(77)がそう話す。江

里山集落は現在、24戸約80人余。

耕作水田面積12haほど。今も懐かしい原風景が残る山里だが、自給

自足的に暮らしてきたわけではな

さうである。

江里山集落は、佐賀県の中央に位する標高1046mの天山の

南側約250mに開かれている。

眼下に佐賀平野を一望し、さらに有明海を望む。有明海まで直線距離で10数kmもない。天山から有明海まで、天山を源とする祇園川水系とその西側を流れる晴気川の流域が小城市である。

その天山の麓、佐賀平野の北端部に、千葉氏が城を構えた祇園社(現・須賀神社)の小高い山がある。この地は、下総から千葉氏が1287年に下向し、城を築き城下町として発展した。京都の八坂神社から分離したこと、今も小

城市内には祇園川や清水といった名前が見えてくる。

江里山は、紙漉きも盛んでした。昭和40年ぐらいまでですね。う

京都に由来する名が残る。

『小城町史』(昭和49年発行)をめくつてみると、明治前期、旧小城町は「小城町商売多く」といわれていた、とある。小城羊羹は有名だが、それだけでなく、明治に入り、城下町の名残で小さな産業がたくさん育っていたようだ。

農家はもちろん米作が中心だが、

農業を主体とし、それと結びついた農村家内手工業が、当時の小城産業の中心であった」と書かれ

てある。町史はこう続く。

「楮皮(※1)——紙漉き——紙屋、

「農業を主導とした」と書かれ

てある。町史はこう続ける。

ちの(妻)も若い時分までは紙漉きをやってましたよ。娘時代に、女性が紙を漉く。障子紙です。技術を持った最後の世代ですね」

と岡本さんは話す。手漉き和紙

の歴史は古く享保年間(1716~1735)に筑後から伝わった

とされ、明治後期から大正期にかけて、紙漉き戸数は江里山で25戸もあったようだ。戦時中途絶えたものの、戦後、再び農家の副業として盛んだったという。江里山にも製紙組合の共同作業場が3か所

あつた。

岡本さん宅で、そんな話を聞きつつ奥様が出してくださったお茶

を一口。その瞬間、葉の香りと甘みが口に広がった。深い味わいな

がらどこか素朴で親しみがわく。

「わあ、おいしいお茶ですね」

「ああ、それはどうも。地元の、

ここでできたお茶ですよ」

と岡本さんが謙遜しつつ言う。

集落で取れたお茶をみんなで製茶

したものなのだと。かつては製

茶も副業の一つだった。

そして、昭和40年代には姿を消

したというが、水車も集落内に3基あつた。米をついたり、麦やソバを粉にしたり。

「いつも水車のキーコンキーコン」という音が響いていましてね。風物詩でもあつたんですね」

が生産にとどまらず、加工まで手がけ、地域の複数の産業を支えていた姿が見えてくる。

江里山は、紙漉きも盛んでした。



須賀神社(右)。下総から下向した千葉氏が、小城の城である祇園社(現・須賀神社)を建立(1316年)。その向かいには、昔の建物を生かした小城羊羹の老舗・村岡の羊羹資料館がある(下写真)。



## 江里山ひがん花祭り

江里山集落、約16haの中に、な

こうした時代変遷を経て今、江里山を一躍有名にしているのが、「江里山ひがん花祭り」だ。美し

い景観が人気の祭りである。

江里山集落、約16haの中に、な

こうした時代変遷を経て今、江里山を一躍有名にしているのが、「江里山ひがん花祭り」だ。美し



江里川(くわらがわ)。棚田を横取りするように走る波寄花の咲き満る。写真：小城市役所農村整備課

何か地域全体でやろうと  
平成9年、地域の懇親会を  
野外で行つたのがはじまり  
いつしか人を招き、今では  
和太鼓やバンドなどの棚田  
コンサートも。意外にも江  
里山の人は応対に追われ、  
集落で出店する余裕はない  
とか。けれども、小城町駅  
産物直売所「ほたるの郷」  
の出店テントには、江里山  
棚田米や江里山のこんにゃ  
くが並ぶ。

「地域をP.R.することが目的ですか。かつて、棚田も食べるためだけの場所でも

なると、真つ赤に染まるんですね。稲穂が実って黄色であります。そこに真つ赤な彼岸花。映えるんです。まさに自然が織りなす造形の美ですね。昔からの景観が保たれているんですよ。

岡本さんは続けた。  
「兼業農家で地域や周辺に働く  
があれば、棚田でもやっていけ  
す。棚田の見回りも車ででき、  
つと見回れる環境整備も必要で  
よ。朝、バツと見てバツと仕事  
行ける兼業農家であれば、今  
代、棚田は守っていける、とい  
うのが私の辿り着いた考え方です」

認定。そして、平成20年には「賀県遺産」となった。

「今、春にも菜の花を咲かせようと、3年前から棚田に菜の花の花を蒔いています。5月頃咲きます。咲かせて棚田にすき込むんです。化学肥料を減らす緑肥栽培を兼ねています。みんなに声かけて6になりました。さらに、耕作放された田には野菜を植えていこうと、ブロッコリー栽培を地区の員たちで手始めに取り組んでい

んですよ」

（中略）  
「江里山は、県内でも（石積みで  
知られる）唐津市の蕨野の棚田や  
玄海町浜野浦の棚田などと違つて  
泥を積んでできた棚田です。石積み  
の中には植物はそう生えないでし  
ょうが、ここは泥を積んでできた  
畦ですから、彼岸花が生える。  
雨が降つたら土砂崩れで壊れる  
欠点はありますがあ、石積みじゃな  
い分、彼岸花がたくさん生える。  
秋になると、真っ赤に染まるんで  
花祭り。1日だけの開催で800人  
人がこの地を訪れる。前後の彼岸  
花シーズンだけでも約3000人の  
観光客がある。

平成12年江里山稲田米生産組合を立ち上げ、江里山全体の米を扱う。JAが30kg5千円で買い取るところ、30kg1万円。多いときで9000kgが出来。現在は、小城町農産物直売所「ほとりの郷」に卸す。「種田山は完全に熟成しないうちに収穫するから未熟で、低タンパクとなり、おいしい(吉澤さん談)

高木力男さん・豊子さんご夫妻。昭和40年記結婚  
エフ・留森さんは江里山に(交際50年！)

人と1万本の彼岸花が自生するという。まさに「咲き乱れる」そぞろだ。毎年9月23日は江里山ひがん花祭り。1日だけの開催で800人がこの地を訪れる。前後の彼岸花シーズンだけでも約3000人の観光客がある。

したが、環境の視点からも重要な  
し、日本の中でも棚田が脚光を  
び、人々が訪れるようになり、我  
もだんだん変わってきました。  
事にするようになつてきました。  
　彼岸花を一斉に咲かせるため  
今、集落あげて9月初め、一斉  
草刈りをする。彼岸花は5月に

市役所から車で約20分。旧小堀町の市街地からは15分程度。佐野市街地へも車で30分ほどの場所。商と工に近い、この距離感は今まで変わらずここにはある。

昔から江里山集落は、棚田の耕作だけで暮らしき成り立たせてきたわけではない。かつては、城下町小堀がもたらした地域の産業の原材料を担い、加工も手がけた。暮らしさは、いつも地域全域とともにあつた。城下町だった小堀の工業を支えてきた農業の歩みを絆づからこそ、地域の産業の動向を経済活動を色濃く反映してきたといえるだろう。そして今も、「景観」という時代の切り口がこの集落を浮かび上がらせている。



「清水竹灯り」(平成27年は11月15日～23日開催)。瀧への遊歩道及び、川の中にも竹灯りを1万本以上仕込む。取材した日、降りしきる雨の中、18時からの開番にあわせ、市職員や地元など多くの人たちが点灯の準備をはじめていた。灯り写真：小城市役場・瀧地区課



取材地點：小城子鄉大觀園

# 第11回全国棚田千枚田サミット開催10周年記念シンポジウム報告

愛知県新城市 鞍掛山麓千枚田保存会 会長 小山舜二

「地域の宝 これから千枚田保全について探る」（みんなで語ろう千枚田）をテーマに平成27年9月5日、四谷の千枚田・連谷小学校体育館を会場に連谷地域住民、行政、講師、来賓の方々総勢210名の参加を得て、盛大に行われた。「サミット開催10周年を契機に我が『四谷の千枚田』の持つ価値を再認識し、これらの方を探りたい」と開催した。

基調講演では、中島峰広先生から棚田百選サミットのルーツ、また、四谷の千枚田は日本三大傾斜地の棚田であり、傾斜特地と中山間地直接支払制度の再検討を促す話があった。そして、車座会議、開催メインであるこの

現地見学会では、10年間の保全管理状況や歴史被災の現状、生きものと共生した体にやさしいコメづくりの実践、また、企業が取り組む生物多様性調査の一環とした「ビオトープ」の活動などを見学

会議では保存会、地域の課題、諸問題を議論する場として幾つかの「テーマ」を設け、議論した。

○高齢化と後継者の問題  
○中山間地直接支払制度の再検討  
○支援者の受け入れ（小作人・オーナー制度）を考える  
○歴史被災対策（耕作意欲の喪失）  
○地域の宝、市、県の顔としての地域住民・行政の捉え方

○閉校と千枚田の位置付け  
穂積市長（バネラー）は直払いの四期協定解散について、御苦労をかける耕作者に5年の制約は確かに厳しい。市として上向きに考える。と再発足を促させた。田口（恵那市坂折棚田保存会）バネラーから坂折棚田の現状報告、高野（棚田ネット）バネラーからは住民を巻き込んだNPO法人化、中島先生からは特地・中山間地直接支払の活用などがアドバイスされた。住民側では原田公民館長、岡山校長先生から、閉校後の千枚田の位置付け、校舎活用が提案された。

11月末、山形県上山市は、青い空と雪冠を頂く秀峰藏王山、本市特産「紅千柿」の「柿のれん」のコントラストが美しい時期となり、冬支度に忙しい毎日となっています。さて、10月23日～24日に佐賀県玄海町で開催されました第21回全国棚田（千枚田）サミットでは、岸本玄海町長様はじめ実行委員会の皆様や棚田地域の関係者の皆様の力、

さで、10月23日～24日に佐賀県玄海町で開催されました第21回全国棚田（千枚田）サミットでは、岸本玄海町長様はじめ実行委員会の皆様や棚田地域の関係者の皆様の力、

## ●事務局ニュース●

事務局、山形県上山市からのお知らせ



## 編集後記

第20回全国棚田サミットでは、玄海町のみなさまたいへんお世話になり、ありがとうございました。美しいところでした。居心地の良さをみなさん感じられたのではないかでしょうか。本当にありがとうございました。

多くの若手が棚田に注目し、明日を明るく照らしはじめていることが、棚田サミットを通じても見えてきました。次の新潟県佐渡市での開催は、こうしたカラーがさらに強く打ち出されるのではないかと楽しみにしております。

一方、20年以上前、棚田保全の重要性を訴え、全国棚田サミットを提唱した、演出家の石塚克彦氏が11月に逝去されました。石塚氏の奔走があって、この協議会が発足し、「棚田」の知名度は上がりました。そんななかわたしも「棚田」に出会った一人です。感謝を申し上げるとともに、次の時代へ「棚田」の持つ深い意義を伝えることを、この場をお借りしてお約束いたします。

石井里津子

## 会員募集中

新しく会員になったみなさま

<団体会員>一般社団法人 家の光協会  
<団体会員>奥能登棚田ネットワーク協議会

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織

## 全国棚田（千枚田）連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

### 上山市役所農林課

〒999-3192 山形県上山市河崎1-1-10

TEL:023-672-1111(代)

FAX:023-672-1112

協議会 HP:<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

# 工コラボダクツ2015で棚田のPR活動

全国圃田(千枚田)連絡協議会事務局  
山形県上山市農林課

12月10日～12日、日本経済新聞社主催で東京有明「東京ヒッグサイト」を会場に約700団体1700小間のブー

スにおいてエコプロダクツ2015が開催され、当連絡協議会を含めた14団体が「日本の棚田」コーナーとして出展しました。

会場には3日間で17万人程の来場者があり、各地域の棚田をはじめとする特産品の展示販売を行いながら、棚田のPRに努めました。

各出展団体ごとにステージでの発表もあり、また、2日目には、内閣総理大臣夫人の安倍昭恵さんも棚田ブースを見学され、出展団体との意見交換や岡山県美作市、英田上山棚田団とのトークイベントも行われました。

100



- 2:平成30年、福島サミット開催地の長野県小谷村
- 3:安倍昭恵さんと英田上山櫻田氏のトーステージ
- 4:公認キャラ。おおくらくんとともに山形県大蔵村がステージでアピール
- 5:エコブロダックの会場入り口にて
- 6:和歌山県有田川町のブースにも子どもたちが！

追悼——棚田保全を呼びかけた石塚克彦さん

・追悼――棚田保全を呼びかけた石塚克彦さん  
石塚克彦さん、ありがとうございました…さようなら…高知県猪原

石塚克彦さんのご逝去にあたり、心からご冥福をお祈り申し上げます。

石塚さんとの出会いは、25年前の平成元年。右記の時に「我的歌謡道」で開催した全国初の「第一回全国翻田（千枚田）サミット」の計画づくりからであり、そのメインの一つが石塚さん脚本・演出の「男のロマンか女のフマン」という棚田ミュージカルを「劇団ふるさとちばん」が担っていたいたい時からであります。

「劇団ふるさとさやらばん」の方々など多くの応援や支えがあつてサミットが実現したところであります。その活動の中で、「全国の棚田とそこで生きる人々とのでい」をいつも大切にされた石塚さんの心に残る語りを、もう聴けないとと思うと残念でなりません。



故·石琛克彦氏

「君、これから農業は大型機械化、大量生産の時代だよ。効率の悪い棚田なんて……」と話をあまり聞いていただけない厳しい現実がありました。

しかし、「棚田は中山間地域そのものであり、日本全国民の皆の手で守つていかなくてはならない」と国や県、国会議員の皆さんをはじめ、市町村長さん、棚田を守っている方々、そして、石塚さんをはじめ

石塚克彦さんは棚田に市民権を与えた最大の功労者である。石塚さんは棚田の存在がほとんど知られていないかった時、福岡県星野村(現八女市)の棚田を見た報道カメラマンの英伸三さんに「このままで消えてなくなるよ」という言葉に触発されて、その保存に立ち上がり始めた。その時、奇しくも本年(平成27年)4月に亡くなつた高知県の山村辭地として知られる椿原町の町長中越隼一さんが同じ思いであることを知り、一人が力を合わせて全国棚田(芋枚田)連絡協議会を立ち上げ、第1回全国棚田(芋枚田)サミットの開催を実現させたのである。それ以後、マスコミによりしばしば取り上げられ、美しい映像が流されることにより、世間の棚田に対する関心は飛躍的に高まつた。また、棚田の保全を諦める棚田学会も石塚さんの学者にはできない

石塚さんの現代日本社会に及ぼした功績の偉大さ

石塚さんとのお付き合いが始まってからはや30年たちます。物語に魅了された世代にとって、「親父と嫁さん」「男のロマン」等々、ストーリーも音楽も踊りも、どれも新鮮で魅力的でした。とりわけ、大学で農学を学び、農業農村の振興に関する教育と研究に携わっていた私にとって「あれしかった」とは、「ふるさとやらばん」という劇団名が示すように、日本の田舎を舞台にした「農村ミュージカル」だったことです。

や水や自然生態系のことを、書籍などを読むよりも格段に解りやすく、かつ極めて印象的に語られました。巡業先の農村地域では農業・農村の関係者を大いに頼まし、大都市部では、多くの都市民に農業・農村の大切さを気付かせました。石塚さんの、こうした面で現代の日本社会

エネルギッシュなプロモーションにより誕生した。第4回全国棚田サミット(新潟県旧安塚町)が開催された会場で当時文化庁の主任文化財監修官たった大島暁雄さんに学会創設の相談をしたことをきっかけに、初めて人気長の石井進さん、現会員千賀裕太郎さん、衆議院議員の篠原孝さんと私の4人が加わり、講論を重ね学友会が結成されることになった。さらに、主宰する劇団ふるさとやらばんの中山間地を舞台にした公演活動や三越百貨店・西武百貨店における「棚田展」の開催などを通じ、棚田の素晴らしさと大切さを訴え、棚田よ消えるなどと鼓舞し続いたのも石塚さんである。このような石塚さんの棚田に対する熱い思いを受け止め、残されたわれわれは存続の危機にある棚田の研究と保存に全力を尽くさなければならない。石塚さん安らかにお眠り下さい。

エネルギッシュなプロモーションにより誕生した。第4回全国棚田サミット(新潟県旧安塚町)が開催された会場で当時文化庁の主任文化財監修官たつた大島暁美さんに学会創設の相談をしたことをきっかけに、して初代会長の石井進さん、現会長千賀裕太郎さん、衆議院議員の篠原孝さんと私の4人が加わり、議論を重ね学会が結成されることになった。さらに、主宰する劇団ふるさときやらばんの中山間地を舞台にした公演活動や三越百貨店・西武百貨店における「棚田展」の開催などを通じ、棚田の素晴らしさと大切さを訴え、棚田よ消えるなど歌舞し続いたのも石塚さんである。このような石塚さんの棚田に対する熱い思いを受け止め、残されたわれわれは存亡の危機にある棚田の研究と保存に全力を尽くさなければならない。石塚さん安らかにお眠り下さい。

会に及ぼしたご功績は、文字通り偉大でした。石塚さんから1995年、日本の山間地域に「風前の灯」のようにして残っている「美しい棚田」を研究している学者を紹介してほしいとの依頼があり、私は地理学者の中島峰広先生をご紹介しました。そして石塚さんは、棚田に関心のある学者に加えて、農家の方々など様々な会員を募集して、「棚田学会」を設立することを提案されました。1999年の発足から16年間、その副会長としてご指導、ご支援いただき、現理事会を代表する者として、心から感謝を申し上げる次第です。

今、石塚さんの大きく深い「遺志」をいかに引き継いで行けるのか、思い悩むばかりです。しかし、石塚さんが「肥料」とともに撒かれた種は必ず芽を出し茎を伸ばし、あちこちで美しい花を咲かせ、豊かな実を稔らせるることは疑い得ないことです。どうか末永く私たちをお見守りくださいますようお願いいたします。

# 第22回全国棚田サミットは 平成28年7月14日～15日 新潟県佐渡市で！



佐渡のトキ

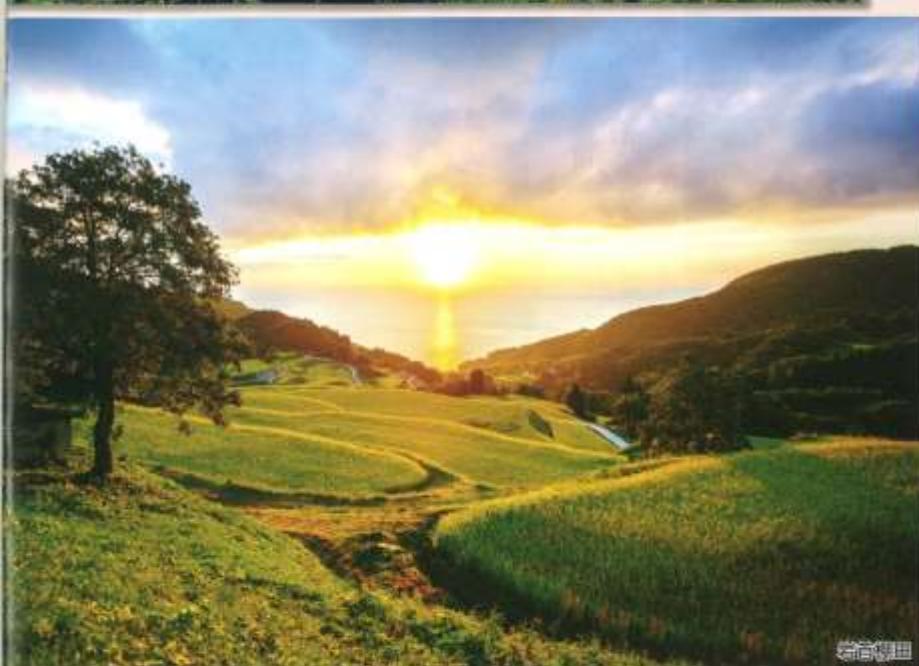
## 次回開催地、新潟県佐渡市から よし かず 新潟県佐渡市 農林水産課 小松賢和

今回の第21回全国棚田(千枚田)サミットに、佐渡市として市長をはじめ30名ほどが参加させていただきました。私自身、今回初めて棚田サミットに参加させていただきましたが、佐賀県玄海町の皆様には町長をはじめ、町民の皆様、職員の皆様に心温まるおもてなしをいただき、心から感謝申し上げます。

さて、次回サミットは平成28年7月14日～15日に佐渡市で開催します。例年のサミットとは時期が異なりますが、初夏の緑一面の青々とした棚田の景観を見ていただきたいという思いからこの時期にさせていただきました。

佐渡でのサミットの目玉は棚田地域で活躍する地域おこし協力隊や、若手の自治体職員・農家などの関係者を集めて「こんな棚田だったらしい」というような棚田の夢を語り合う「U-30棚田サミット(アンダーサーティー棚田サミット)」の開催や、これまでの1泊2日型のサミットに追加して、皆様に少しでも長く佐渡に滞在してもらい佐渡の多くの魅力ある伝統や文化等を知っていただくため、オプションプログラムとして15日の閉会式終了後にはエクスカーション、16日には体験交流プログラムを計画し準備しています。

参加者の皆様に佐渡を思う存分満喫してもらえるようなプログラムを準備しますので多数の皆様のお越しをお待ちしています。



岩首耕作



閉会式では、金山で有名な佐渡らしく、金の延べ棒(ならぬティッシュボックス!!)を手に、次回開催地をアピール

来年度行われる佐渡から参加させていただきました。大涌の棚田の大きさと、海にまで続くウォーキングコースが整備されていて、稻のある季節はもっと感動するだろうなと思いました。また、「恋人の聖地」も、とてもきれいでした。耕作者の棚田への強い想い、景色や自然を守っていきたい気持ちが伝わってきました。

平成28年の全国棚田サミットでは、私たちが事例発表をさせていただきます。歴史の島、トキの島でお待ちしています。



神藏智香さん(右)  
梅谷美優さん(左)

新潟県立佐渡総合高等学校  
(新潟県佐渡市在住)

たかひろ  
岩崎貴大さん

佐渡市地域おこし協力隊  
木津地区担当(新潟県佐渡市在住)



佐渡・岩首耕作者の大石さんが来ていたTシャツは、佐渡棚田協議会オリジナル。「SADO TANADA CONFERENCE 世界農業遺産の島 佐渡」と入っていた。第22回棚田サミットでは入手できるかも！

大石惣一郎さん  
佐渡耕田びと  
(新潟県佐渡市在住)

棚田を未来へ残していく意味や、棚田が持つパワーを改めて感じるのが、このサミットだと思います！ 玄海町のみなさん。とっても温かい人たちばかりでした。やはり、場所もそうですが、そこにいる人にスポットライトが当たるように発信していくなければと思いました。平成28年のサミット佐渡開催に向けて、協力隊として出来ること、若者として出来ることをしっかりと考えていく、みんなが棚田地域に目を向けるきっかけをつくれたらと思います。

